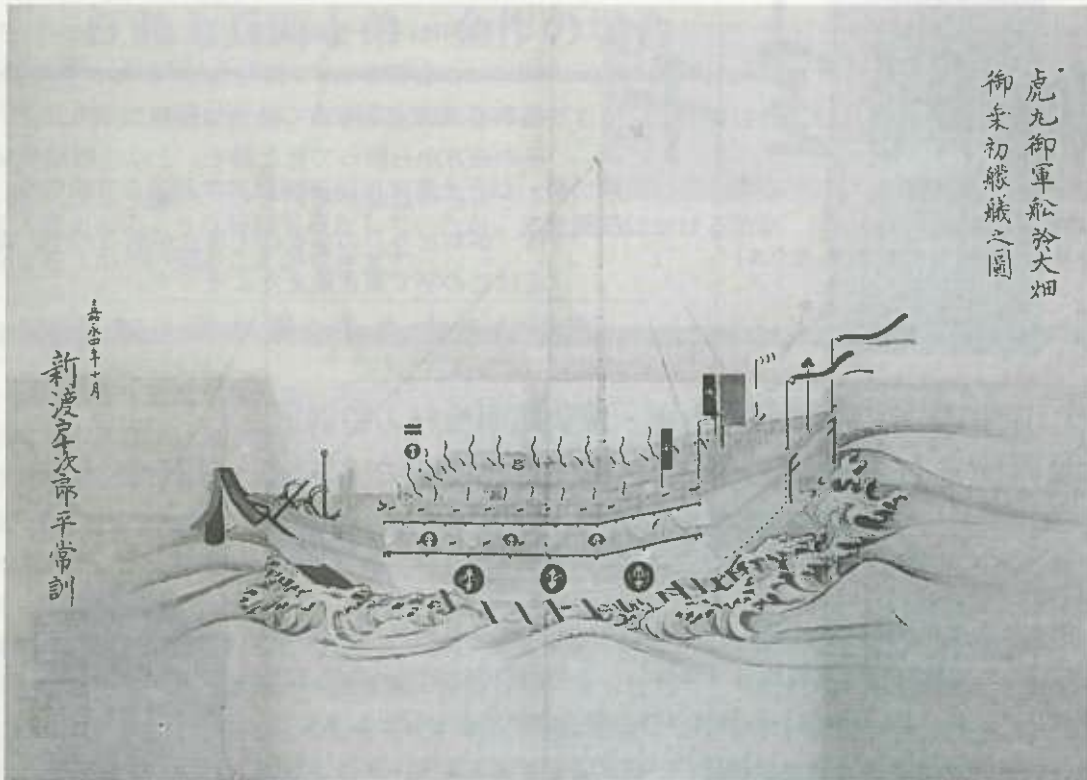


# 十和田市立 新渡戸記念館だより

虎丸御軍船於大畑御乗初艫之圖  
御乗初艫之圖

虎丸御軍船於大畑御乗初艫之圖  
嘉永四年十月  
新渡戸十次郎平常訓

縦三八・五×横五二・五 (cm)



嘉永四年十月  
新渡戸十次郎平常訓

嘉永3年(1850)江戸で御小姓御納戸を務めていた新渡戸十次郎(当時30歳)は、2月に軍船御造営御用を仰せ付けられています。船は江戸深川の石川島で造られ、翌年10月、大畑(現青森県下北郡大畑町)で乗り初めを行ないました。これはその模様を描いたもので、風になびく吹流しがリアルにかかれています。船の大きさは約550石で、大砲数門を積んでいました。当時、盛岡藩には虎丸のほか6艘の軍船(盛岡丸・岩手丸・郡山丸・花巻丸・明神丸・宮古丸)があり、平素は米穀の運送などに従事していたといわれています。



石川島は東京都中央区、隅田川の河口にある島。石川八左衛門の領地で、江戸幕府の人足寄場があり、人足を使って多くの船が造られていた。嘉永6年(1853)からは幕府の委託で水戸藩が石川島造船所を創設(現在の石川島播磨重工)。北斎「佃島」東京国立博物館蔵  
〔『図説日本文化の歴史10下』(小学館)より転載〕



新渡戸稲造  
その魂と言葉の世界

表紙

## 平成10年7月開催「ふるさと発見セミナー」の記録 『新渡戸稲造—その魂と言葉の世界—』を刊行!

太素顕彰会では、平成10年7月に十和田市民文化センターで開催された青森県文化観光立県宣言記念イベント「ふるさと発見セミナー」の記念冊子『ふるさと発見セミナー松川成夫教授記念講演とイベントの記録・新渡戸稲造—その魂と言葉の世界—』を今月17日に刊行します。

このセミナー開催にあたって、太素顕彰会は実行委員会のメンバーとして協力しました。

(記念冊子の問い合わせは新渡戸記念館へ)

1000部  
刊行!

# 新収蔵資料紹介

## 新渡戸稲造博士直筆の書

# 千里贈鴻毛

稲造

縦50.6×横162.4 (cm)

千里贈鴻毛 (センリ コウモウ ヲ オクル)

一般的には「千里贈鴻毛」(センリ ガモウ ヲ オクル)と書きます。鴻毛とは「がちょうの羽」の事で、転じて「極めて軽少なもの」を指し、「千里の遠方から贈ってきた鴻毛」とは「物は少なくともその意味が重いもの」の喩えです。「鴻」は「がちょう」の事を指す場合があるので、博士はこの字で置き換えたようです。

### 愛知県犬山市・博物館明治村の特別展

## 『素晴らしき明治の偉人たち～お札に描かれたヒーロー』に 当館資料16点を貸出し協力！



板垣退助

博物館明治村(愛知県犬山市 財団法人明治村)で3月18日～5月28日に開催される開村35周年特別展『素晴らしき明治の偉人たち～お札に描かれたヒーロー』へ、当館から新渡戸稲造関係資料16点を貸出しました。これは当館開館以来、もっとも遠くへの貸出しとなります。また、貸出し資料の中には、新渡戸稲造着用の大礼服や直筆の書のほか、初公開となる新渡戸稲造遺品の硯も含まれています。



高橋是清

今回の明治村特別展では、第二次世界大戦以降、日本の紙幣に描かれた7人の明治時代人を取り上げ、その中の一人として新渡戸稲造を紹介するとのことです。同博物館担当学芸員の中野裕子さんは「フロックコートや大礼服など実際に身につけていたものを見ていただく事で、偉人たちを身近な存在に感じられる展示にしたい」と話していらっしゃいました。



岩倉具視



伊藤博文



新渡戸稲造



西村瀧石



福沢諭吉

※肖像画は「図録 お札と切手の博物館」(大蔵省印刷局記念館発行)より転載

一二年(一八七九)建築。重要文化財



## 博物館明治村

博物館明治村は、明治時代の貴重な建築物を保存展示する野外博物館として、昭和40年(1965)に開村、明治文化の普及や明治時代の偉人の顕彰等の各種行事を実施しています。

犬山市郊外の美しい丘陵地100万㎡に重要文化財9件と愛知県の有形文化財指定を受けた一件を含む67の建造物があり、教育の場としてだけでなくリクリエーションの場として広く親しまれています。

村内にはS Lが走り、フランク・ロイド・ライトの設計による帝国ホテル中央玄関などの見所多数。

博物館明治村 TEL 0568-67-0314 FAX 0568-67-0358

<http://www.meitetsu.co.jp/meiji-vil/>

特集 江渡家文書から

三本木原開拓に地元加入者が果たした役割  
江渡七兵衛と弟・金作の場合

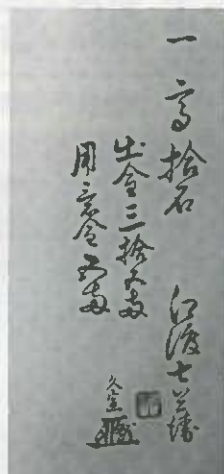
平成7年に寄贈いただいた江渡寛家文書の裏打ちが、この度終わりました。

その内9点の三本木原開拓関係文書からは、特に地元に住む開拓加入者がどのような役割を果たしていたか、また開拓にかける熱意などをうかがい知ることができます。

地元加入者が果たした大きな役割

盛岡藩士・新渡戸傳の願い出によって安政2年(1855)にはじめられた三本木原開拓は、主に開拓加入者からの出資で行なわれました。加入者は『五戸・七戸新田開発儀定帳』(当館所蔵)に取り決められた様に、稲生川の上水成功後、出資相当の開拓地を受け取ることになりました。開拓加入者といっても盛岡など遠方に住む場合、開拓地へは視察に訪れるくらいでしたが、開拓地近くに住む加入者たちは、実際の開拓事業の重要な担い手として資材調達などの雑務を行ないました。相坂(現十和田市内)を拠点とする五戸御給人・江渡七兵衛もまた、安政2年に取り分10石として加入し40両を出資していますが、その他に米や味噌の手配や宿の提供、時には開拓関係書類を隣村まで運ぶなど、開拓にかかわる様々な仕事をしていました。そして、地元加入者たちによるこのような仕事が開拓事業を支えていました。

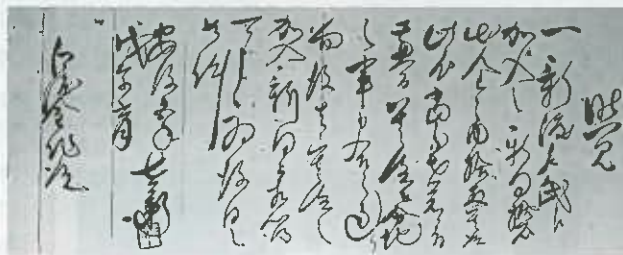
また、開拓日誌によると安政6年(1859)7月に開拓地域村民総出で行なわれた蒼前社境内(現三本木稲荷神社境内)の整地工事では、七兵衛の弟・金作が苦米地勘太夫(五戸御給人)とともに相坂の人びとによる寄進働きの世話役を任されています。さらに、金作は蒼前社再建の世話人も吉野屋十左衛門(近江商人)とともに務めました。江渡七兵衛、金作のような地元加入者は、開拓地経営を取りまとめる上で重要な役割を果たしていたと考えられます。



『五戸・七戸新田開発儀定帳』  
儀定帳によると江渡七兵衛は出金35両、用意金5両合計40両で加入している。

開拓事業に積極的に参加した相坂江渡家の人びと

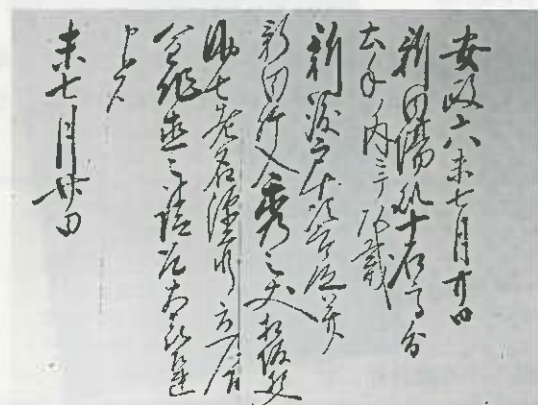
安政5年(1858)6月付の江渡家文書によると、七兵衛は三本木原開拓加入金の内10両を弟の金作に払わせる形で、上水後割り渡される開拓地の経営を任せることにしました。そして七兵衛本人は別の場所に長屋を建てることを願い出ており、その地所(表口36m奥行き95m)の土手築き等は安政6年6月12日に行われています。安政6年7月10日の開拓日誌には、江渡七兵衛から来た文書に長屋経営についての考えが次のように記されています。『家財を売ってでも往来の左右にゆくゆくは長屋10軒を建て経営を行ないたいと考えている。また菜園地を一丁四方もらって町の特産物をつくり、七戸や野辺地で売りたい。畑守を置き、三戸などから人を雇って翌年春から作りたい。』この手紙からは自ら開拓地で積極的に事業を起こす姿勢が見うけられます。



安政5年6月付江渡家文書  
江渡七兵衛から弟・金作が開拓地を譲り受けたことを記す「覚」

七兵衛から開拓地を任されることとなった弟金作は、安政6年7月20日に10石分の地所(大和田堤北側、現在の市内相坂字高見のあたりか)を受け取っていますが、22日にいち早く普請に取り掛かりたいと新渡戸十次郎へ願い出て、杭打ち等をはじめています。七兵衛同様、金作もまた三本木原開拓へ熱意をもって参加していたことがうかがえます。また、文久2年(1862)には親戚筋にあたる江渡慶助と福田繁助が金作の立会いのもと加入しており、相坂の江渡家一統が三本木原開拓に大きな期待を寄せていたと考えられます。

安政6年7月20日付江渡家文書  
江渡金作が土地10石高分を新渡戸十次郎  
から受け取った事が記されている。



### 関連情報

#### ●人気番組「知ってるつもり!」で新渡戸稲造を紹介

1月30日に「知ってるつもり! エジソンと新渡戸稲造」(日本テレビ)が放送されました。エジソンが稲造の著書『武士道』を愛読していたことや、稲造と直接会ったエピソードなどを紹介し、エジソンに影響を与えていた人物として新渡戸稲造を取り上げていました。この収録には当館も協力しています。

#### ●初版から100年目に『武士道』翻訳出版

今年は『武士道』出版からちょうど100年目にあたり、この記念すべき年に関西外国語大学佐藤全弘教授による翻訳本が出版されました。『武士道』の翻訳は1908年出版の



桜井鶴村訳、1938年の矢内原忠雄訳、最近では原文とともに収録した1998年出版の須知徳平訳などが出ていますが、今回の翻訳では初版と第10版の改訂部分に留意し、現代人にあわせた注釈を付けるなど100年の歳月を意識したものとなっています。

樹教文館・2000年1月出版  
本体価格2,000円

#### ●文化財保護消防訓練が1月23日新渡戸記念館で行なわれました。

1月26日の文化財防火デーにさきがけて、23日9時30分から当館で文化財保護消防訓練が行なわれました。発煙筒を焚き、避難誘導および文化財の搬出や放水などの防災訓練を行ないました。



防災訓練の様子

#### <編集後記>

お蔭様をもちまして20号に到達しました。この5年間色々ご配慮を頂き感謝致しております。これからも地域に密着した編集を心がけて行きたいと存じますので更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

#### ●「星の巫(かななぎ)」を森下年晃氏が出版

十和田市の開業医・森下年晃先生が2月10日「星の巫—縄文測量の視点で歴史を見る」を出版されました。先生の「空想歴史学」ともいえる長年の研究集大成として、「稲生川」との出会いに始まり縄文から三本木原開拓に至る、ロマンあふれる物語をまとめられました。

文藝春秋・2000年2月出版



#### ●当館ホームページへのアクセス急増中

この度、新渡戸記念館ホームページを検索サイトに登録しました。登録とともにアクセスが急増し、現在約1000人の方にご覧いただきました。

### 資料の貸出し協力

#### ●愛知県犬山市・博物館

明治村特別展

「素晴らしき明治の偉人たち～お札に描かれたヒーロー」へ資料貸出し(詳細2面)



明治村図録より

### 活動報告

#### ●平成10年開催のふるさと発見セミナー記念講演とイベントの記録冊子を太素顕彰会より刊行(詳細1面)

#### ●新渡戸記念館所蔵資料目録完成を来年度に見込んでいます

平成7年度から記念館資料の目録作成をはじめて5年目となりました。12年度は特に集中的な目録作業を行ない、年度内での完成を目指しています。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

http://www.towada.or.jp/nitobe/

印刷 有限会社 岩間印刷所